

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 岐阜大学教職大学院
コラボ研修プログラム	事業名：NITS・岐阜大学教職大学院コラボ研修 「インクルーシブ教育時代の校長を支える特別支援教育マネジメント研修」
支援事業報告書	研修等名：【NITS・岐阜大学教職大学院コラボ研修】 「インクルーシブ教育時代の校長を支える特別支援教育マネジメント研修」
	開催日時：令和4年8月23日(火) 9:30-12:00、12月22日(木) 10:00-12:00(研修会) 令和5年2月6日(月) 13:00-16:10(岐阜大学シンポジウム) 開催場所：岐阜大学 ZOOM 会議(岐阜県岐阜市柳戸1-1) 参加人数(24)と参加者の属性：岐阜県小・中・義務教育学校校長24名、岐阜大学シンポジウム200名

内容：「令和の日本型学校教育」を実現する上で、特別支援教育の推進が求められているが、それを担う人材は不足し、支援体制も不十分である。本事業では、NITS とのコラボ研修により、全国で初めて小中学校等の校長先生を対象とした特別支援教育のマネジメント研修を開発した。

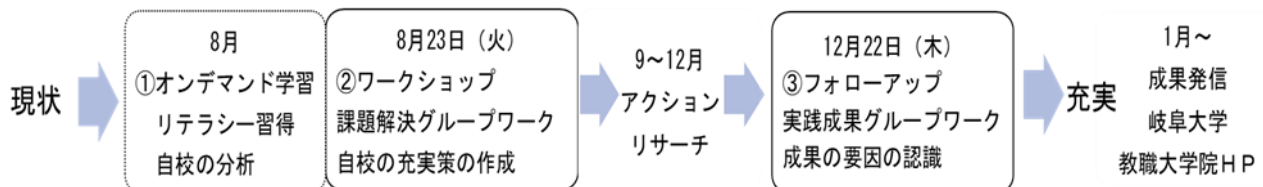
目的：自校の特別支援教育マネジメント状況を振り返り、充実策を説明できる。

対象：岐阜県の研究協力者の校長先生 24 名

講師：岐阜大学教職大学院(平澤紀子、原尚、出口和宏、芥川祐征、古賀英一)
岐阜聖徳学園大学(篠原清昭)

内容：①オンデマンド学習で特別支援教育の基本情報を習得
②ワークショップで課題解決思考を習得
③フォローアップで成果の要因を認識

特別支援教育マネジメント研修



成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

①全体的満足度：10 点中 8.4 点(8月)、8.5 点(12月)

②研修の目的や方法：「とてもよかった」5 割以上・「ある程度よかった」と合わせて 9 割近く

③研修で得られたこと：「とても得られた」が 5 割以上「ある程度得られた」と合わせて 9 割近く

④研修成果の活用：本研修で考えた充実策を実践した「とても」38%「ある程度」63%、実践して成果が得られた「とても」23%「ある程度」77%

⑤受講者の感想：本研修は特別支援教育の視点から、自身の学校経営実践を振り返り、大切なことを明らかにすることに役立った。支援や体制が不十分な中でも校長としてできることが明らかになった等を得た。

アイデアや工夫したこと：

①小中学校の校長先生を対象とした特別支援教育マネジメント研修

②事前にオンデマンド動画で特別支援教育の基本知識を学び、ワークショップで自校の充実策を作成し、その実践成果の交流を行う研修コンテンツ

③自治体の校長研修に取り入れやすい内容

④同時双方向のオンライン研修

ワークショップの様子（8月23日）



フォローアップの様子（12月22日）

特別な支援を必要とする子どもを含む集団での授業

＜実践成果＞

- ・校長が児童生徒の良さを伸ばす方針やモデル提示
- ・地区の教育支援委員会で方針を明確化し、本人や保護者に将来を見据えた説明
- ・全校体制が機能する特コの指名（教頭と特支担任の複数体制等）
- ・全校体制が機能する教務と特コが中心となる教科担任会、相談室運営
- ・支援員を増やし、担任を支える体制等



＜できること＞

- ・校長がどれくらい意識するかで他の教員の視点は変わるよね
- ・子どもの立場からの就学支援
- ・通常と特学の連携体制
- ・校内の専門教員を活かす体制
- ・校外との連携による情報入手

将来を見据えた説明が難しいよね

通常と特学に隔たりがあるよね

生きる力の教科指導がわからないよね

特別支援学校センター的機能の話がでない・・・